世阿弥研究会　簡易記録（2020.1．21）＠河村能舞台18:00～20:00

能楽情報

1. 面白能楽倶楽部29号（元年12月号）河村博重先生発行
   1. 3月3日「羽衣」舞　大阪山本能楽堂　お笛の野口先生の素人会
   2. 3月24日「胡蝶」舞　京都観世会館
   3. 10月19日「一調　勧進帳」謡　田炭井廣道さん独立20周年記念（玄人会）

一調とは能の一部分を謡一人と打楽器で一人で上演する形（29号内　石井康彦氏の説明文から）

* 1. 12月1日　社中から素謡　九州青嵐会（大濠公演能楽堂）→小倉　5日間片山財団の学校公演「一角仙人」地謡（11月28日から九州稽古　9日）
  2. 元旦朝6時　下加茂神宮　奉納、謡、神歌、鶴亀、羽衣　「吉野天人」の仕舞を舞う

10時30分　観世会館の謡い初め

午後1時　　平安神宮の謡い初め

午後3時　　河村能舞台　一族写真撮影

（12月31日　下賀茂神社舞台掃除）

* 1. 1月12日　「翁」「養老」の地謡　京都観世会館霊界　初会
  2. 1月3日　「翁」「舞囃子　屋島（　）」滋賀県多賀神社奉納
  3. 1月25日　仕舞「羽衣」片山定期能七十周年記念特別公演
  4. 2月11日　「能と狂言」京都造形芸術大学　春秋座　「井筒」で出演
  5. 3月8日　素謡と仕舞の会　京都観世会館　「竹生島・忠度・隅田川・鵜飼」

1. 資料「三輪」の流れ（漫画付き）

**本日の読解（「風曲集」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・世阿弥能楽論集　編訳：小西甚一）**

1. およそ音曲に、当座々々の時節の相応あるべし。・・・・・・・・・・・・・pp.263－264
2. 音曲の懸かり・風体に、両様あり。人の用ゐにも品あり。・・・・・・・・・pp.264－266

**読解１．稽古の用心（研修の注意）・・・・心がけ**

1. 謡は時と所に適合するものでなくてはならない

御前の前：

規定通りのめでたい謡、序破急の順序どおりゆけるので、あらかじめ予定した手順でできる

晴れの場でなく、酒宴の席などでもなく、普通の席：

祝言の謡でなくてもよい。優美な曲諏のもので、その場にふさわしい曲、流行の小歌節曲舞など

1. 場面に応じた謡を平素から準備しておく、その場その場にふさわしく演じるように
2. 心中に工夫をつくすのを「稽古の用心（研修の注意）」と称する
3. 以上のような心がけで稽古・習道し、どんな内うちの場合でも貴人御前の前のように、貴人御前の前では気にせずただ自分が習得した曲あるいは工夫を力いっぱい発揮することに専念し、たとえ数万の観衆があろうとも相手は一人きりと心を落ち着けて、一調・二機（気）・三声とうたい出すとよろしい。

　ディスカッション　１

宮沢賢治「永訣の朝」の能楽（青木みちよし）がある。

ワキとシテ（ワキは現世　東の端に、シテはあの世。西方浄土、天界　西から）

一調・二機・三声・・・「機」はタイミング

　　　　　　　　　　　地謡：地頭という役割　後列真ん中　序吟がとなり　全部で8人

　　　　　　　　　　　　　　地頭より先に声を出してはいけない

　　　　　　　　　　　　　　地頭よりあとに伸ばしてはいけない

　　　　　　　　　　　　　　ただし、地頭が間違った場合には訂正してホローする。

世阿弥と禅竹：世阿弥はテキストを書いた。あと書いたのは禅竹

　音楽に例えると：世阿弥・・・中島みゆき（情念の世界・・・ただし「井筒はユーミン」）

　　　　　　　　　禅竹・・・・山崎ハコ

井筒はかづら物

三井寺：現在進行形

高砂・猩々は寅さん・・・最後は青空、めでたし・めでたし

修羅物：あの世でも戦い続けている、救われて終わる・・・最後にハッピー・エンド

　　　　年末の「頼政」はしょうぎを馬に見立てて演技

能にみる黄金比

　女面の縦横の比率

　開いた扇の横縦の比率（開いた扇は女・閉じた扇は男根の象徴）

黒川能・・・同じリズムの連続・・・600年前のレゲエ

三輪の神楽

神楽止め

　梅若六郎「空海」

　同音の連続→トランス　例えば「ケチャ」のトランス（芸能山城組が上演していた）

「細川ガラシャ」ではお囃子にパイプオルガンが入る。

教会と能

　能はミサ的なところがある

　後見が代わりに舞う　ハプニングがあったら、後見が代わりに・・・そこから「後見人」という言葉

能の世界は相撲の世界よりも女性に優しい

　アマチュアの8割が女性（男は2割）

笛・小鼓・大鼓（おおかわ）・太鼓・・・お雛様の五人囃子・楽器の持つ高さ

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（ひな人形の男女の左右：明治まで左が男・・・左が上位）

笛：心情風景（竹の内側に小さな笛：あの世の扉が開く）

小鼓：陰（馬と鹿の皮で）

大鼓：陽

太鼓：刻

７・５調に12文字　8拍（1泊を１/2にして16拍の中に12を入れる）

能楽堂が室内になったのは明治から

能楽師は国家公務員だった江戸時代。見事な上演にはご褒美が舞台の前方の階段から。

檜舞台・・・・・・檜

雅楽面・・・・・・桐

天河の阿古府尉・・楠

（世阿弥の妻が楠木正成の娘だった）

笑

口元を横に引く⇔笑い

スキップ⇔笑い

笑う門には福来る・・・楽しい

　「わーーーー・あ・は・は・は・は・は」（高く昇って、ゆっくりと降りてくる）

狂言（たびが黄色）

　狂言・合狂言

観客にあわせたTPO

ひとりひとりに舞う、あわただしくならないように

囃子方・地謡：人数調整

即興はあるか

　酒宴の席にはあったらしい

　種をつくっておけ（レパートリーをたくさんに）

雅楽との関係は

　舞台：松竹梅の梅がない、倍かかるから

　神楽：お笛と太鼓（鼓は新しい）

　一人翁：本殿に向かって松

おむすび△ーおにぎり□

さしみーおつくり

おだしーおつゆ

「草木国土悉皆成仏」がなぜ頻繁にでてくるのか・・・・言霊の世界

ケルトの鹿角面の世界・・面をつけている人だけが内側を見ている

能面の裏：裏見（恨み）の世界

コスメティック

受容器官に化粧・・・感覚をフォーカスして装飾に

めめ・みみ・はな・くち

東陣跡・西陣（ここから歩いて1分）

足利義満の花の御所・相国寺・若冲　ゆきの御所（平清盛：湊川神社）

カチムシ・・とんぼ

たんぽぽ・・小鼓の別名

観世稲荷（観阿弥の観と世阿弥の世で観世、阿弥は阿弥陀仏）

能楽の人も明治維新では遷都

江戸時代：方言の統一に「そうろう文」を基準とした

お金を使わせるため、参勤交代と能の習得を義務付けた

「翁」は別格

祈りと儀式

橋掛かりの真ん中を通る・・・神さんだけ

白色尉（能）・黒色尉（狂言）

臨床哲学（鷲田清一）

**読解２　有文音感と無文音感・・・最高の妙声**

1. 謡のおもむき・表現形式のふたとおり・・・これに従い、観客の木の実にも両様

**有文音感**

・・・面白みのある曲を連ね「句移り」をあやなして、聞き所が多い

**無文音感**

・・・耳に聞くところはあまり感心させるような「曲」もなく、ただどことなく美しく豊かに感じる

1. 両者はどちらが上というわけでもない
2. 無文の中にも段階

**おもしろ感**

曲を十分に習いつくし、アクセントのあつかいが熟達した後に、安き位というべき妙味のある謡。

「曲」も「あや」もなく聞こえながら、謡の情趣にいうにいわれぬおもしろさ。

芸のちからによる感

　　　　　聞きざめのする謡・・・よく勉強していない無文。単に研究工夫をしていないための無文。

1. 最高・・・**無文であって、しかもおもしろいという位**

　　　　　　　　　いろいろ述べてきた研修の次第をことごとく習いきわめつくして、四声・呂律の「句移り」や「文字移り」をも、すっかり身につけ、安き位になりきって、これまで体得したいろいろが心のなかの中核にこもり、耳に聞こえるところは、えもいわれぬ音感だけといったようなもの。まさに**無上の位**

　　　　無上の位にまで至りえた謡

　　　　　　　　　有文も無文も、どちらも思いどおりにうたってゆける

1. 聞くほうからの有文・無文

研究工夫を欠いた無文

・・・ただ曲あつかいのおもしろさ、よくよく聞くと感銘があまりない

**有文を極めつくした然る後到達した無文**

**・・・至りうる最高の妙声。**

そんなにおもしろみもないように聞こえながら、感興が非常に高まり、しかも無限のよさがしみじみと湧き出てくるような有文を極めつくした然る後到達した無文

1. 真の無文音感には、有文もいっしょにこもっている・・・・・第一等のもの
2. 有文の音感は、まだ絶対的な高さにまでは至っていない・・・第二等とする
3. **一というなかには多を含むが、二は二かぎりのもの**

ディスカッション　２

謡のクオリティーの2種類

　素人も聴いてわかるもの、メリハリ、大衆うけのよいもの

　誰が聞いても美しくきかせる、魅力のあるもの

もうひとつの無文・2種

クオリティー：低い

情趣を引き出す、醸し出すを感じさせる

有が２・無が１

無が１・・・あらゆるものを無尽蔵に内包している

一即多（ひとつの音にいろいろな音、調和している）

二（その音をだそうとしている）

具体例

　竹の音・・・和楽器、笙など

　CDで聴くと生で聴く（生はカットがない、そのまま）自然と人工（西洋音楽は人工度が高い）

　尺八の音

西洋音楽ではジョン・ケージが4分33秒などの「無」の中に表現

ヒップホップ・・・ビートの上に言葉

　　　　　　　　　ラップがあると聞きどころはあるが、ビートだけもいい

　　　　　　　　　ビートに無限のクオリティー

無文の方がしみる

ファッション：ブランドと無印・ユニクロ

ジョン・レノンの曲：「ダブル・ファンタジー」と「ミルク・アンド・ハニー」

ミルク・アンド・ハニーの方がより脱力している・・・無文

ダブル・ファンタジーはロマンチック・・・有文（全部作られている、誰が聞いても面白い

ミルク＆ハニー・・・無文音感

家庭内演奏が含まれている

一人のひきがたりシンプル

ちゃんとつくりこんでいる曲にぼこっと空いている自分の部分

　　出だしも自然

　　乳と蜜の流れる地へ行け

アブラハムに神が命じたカナンの地、エデンの園の現代版

バクダッドからエルサレムへ・・・ユダヤ教のはじまり・・・たいへん象徴的

　能舞

　　有文）弁財天マリア

　　無文）2回目：由良部さんとのデユオ　山川草木悉皆成仏　かきつばた

くす玉

　つくりこんでいる・つくりこんでいない

金閣寺

　三島由紀夫　有文

　水上勉　　　無文

山本憲吉

　刻意―有文

　卆意－無文

自然と音・・・どれだけ自然に近づくか、日本人の好むもの

走り書きのようなもの

（急いで書いた名前：かかりつけK医院の看護婦さんがほめた・・めったに褒めない人が褒める）

フランス万博の時の二つの国の音楽の出会い

　フランス・・・・・西洋音楽オーケストラ

　インドネシア・・・ガムラン音楽

　バリの人の感想「チューニングがいちばん良かった」

作為の無さ、おしらべ、音合わせ

|  |
| --- |
| **世阿弥研究会　今後の予定**  2月は、2020年2月25日（火）18時～20時＠河村能舞台で行ないます。 3月は、2020年3月17日（火）18時～20時＠河村能舞台で行ないます。  **行事案内**  、「**京都伝統文化の森推進協議会**」の第27回公開セミナー　テーマ：「 山づくりとまちづくり 」  日　時：令和２年２月９日（日）午後１時～午後５時  場　所：京都大学稲森財団記念館３階大会議室（左京区吉田下阿達町４６）  2020年10月24日・25日に、久高島で、「**第1回ヤポネシア音楽祭**」を行ないます。  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　鎌田東二拝 |

記録・文責：木村はるみ